

今村復興相、辞任へ

被災地巡り失言、引責

震災「東北で良かった」

今村雅弘復興相が25日夜、所属する自民党二階派のパーティーで講演し、東日本大震災について「これは、まだ東北で、あっちの方だったから良かった。もっと首都圏に近かったりすると、莫大な甚大な被害があったと思う」と述べた。講演後、発言を撤回。辞任する意向を固めた。被災地を軽んじる発言で、与党内からも進退を問う声が出ている。

▼4面||二度も傷つけた、35面||憤る被災地



「本人の責任」発言に続き

今村氏は4日の閣議後の記者会見で、原発事故の自避難者が故郷に戻れないことを「本人の責任」と発言し、批判を浴びたばかりだった。

今回は、大震災の人的被害と社会資本の被害に触れた後の発言。直後にあいさつに立った安倍晋三首相は「東北の方々を傷付ける極めて不適切な発言があった。総理大臣として、まずもっておわびさせていたいただきたい」と述べた。

今村氏は記者団に「東北でも、あんなひどい災害だった。ましてや首都圏に近

い方だったら、とんでもない災害になっているだろうという意味だ」と釈明。その後再び記者団の前に現れ、「不適切な発言、表現といったものについて深く反省し、皆様方におわびを申し上げる」と謝罪した。

公明党の大口善徳国会対策委員長は「被災地の方々の信頼関係を失墜する発言をしたことの意味をもう一度かみしめて、自らの出処進退は、政治家として決断されるべきだ」と発言。民進党は26日午前の参院東日本大震災復興特別委員会の審議開始までの辞任を求めている。

(山岸一生)

自身の発言について記者団に釈明する今村雅弘復興相||東京都千代田区紀尾井町

デジタル版に発言詳細

「またか」憤る被災地

「今村復興相、東北軽んじている」

「東北で、あっちの方だったからよかった」。今村雅弘復興相が25日、講演の中でそう語り、辞任に追い込まれた。震災では1万8千人を超す死者・行方不明者を出し、6年後も約7万人が仮設住宅での生活を続ける。「あっちの方」と呼ばれた被災者からは怒り、あきれれる声が上がった。

▼1面参照

「またか、とがっかりした。なぜこんな発言を繰り返すのか」。東京電力福島第一原発がある福島県大熊町から避難した石田忠文さん(69)は言う。今月4日には、政府の避難指示によらず避難した自主避難者について、「本人の責任」と発言して批判を浴びたばかり。石田さんは「被災者の気持ちをも何も考えていない。大臣の資質がない」。今村氏は2016年8月3日に就任すると翌4日に

福島県庁を訪れ、内堀雅雄知事に「未来への希望。これをエネルギーにしてやっ

ていこうじゃないかと思っ

ている」などと復興への意欲を語った。しかし、今年1月、福島市で開かれた福島復興再生協議会の席上、

「福島の復興はマラソンにたとえると30キロ地点」と発言。内堀知事は記者団に

「避難指示区域ではまだスタートラインに立っていない地域もある」と反発。内堀知事は25日夜、「被災地の実情を理解していないと言わざるを得ない」とのコメントを出した。

今村氏は22日に宮城県の津波被災地を視察。名取市の災害公営住宅を訪れた。

仮設住宅から昨年移った石沢みや子さん(75)は発言を聞き、「私たちがどれだけ大変な思いをしたか、知っているのか。どこならよく

どこなら悪いだなんて、

失礼だね」と怒りをあらわに。辞任は「当たり前でしよう」。

宮城県の村井嘉浩知事はコメントを出し、「東北だったから良かったというのは、被災者の感情を逆なでするものだと思う。東北を軽んじている印象を与える」と指摘した。